

エフェーミック注射液 1mL
の配合変化に関する資料

鶴原製薬株式会社

(H14年8月)

肝臓製剤

●肝臓抽出エキス・FAD

〔成分〕 肝臓抽出エキス 15 μ L
フラビンアデニンジヌクレオチド (FAD) 10mg

〔性状〕 肝臓抽出エキスはアデニル酸ならびにその誘導体、フラビンモノヌクレオチド、リボフラビンなどを含有する。
本剤は除蛋白した注射剤である。

〔安定性〕 光の影響：本剤は室温および 40℃の加温では外観変化を認めないが光照射 (10,000LUX)においては、96時間程度より変色する。

〔配合性〕 本剤は生物由来の製剤であるため混合による大きな pH の変化は好ましくなく、また緩衝性がないため他剤の液性に左右され易いと考えられる。

〔用法〕 皮、筋、静、点静 (ブドウ糖、五単糖などで希釈)

アダラビン9号のインタビューホーム及び富士プリント出版の「注射剤の配合変化」を参考に、エフェーミック注に2剤配合の物理化学的変化をみるため試験を行った。

その結果、イスジリン-20、アナフラニール注射液、10mg コントミン注では白濁、懸濁が認められるため配合不可と考えられる。その他については変化を認めなかった。

二剤配合

配合薬品名・配合量 メーカー名	エフェーミック注 使用量	配合変化
ラシックス注 アベンティス	20mg 2mL	1mL 室温 3 時間変化なし
ペルサンチン注射液 ベーリンガー田辺	10mg 2mL	”
チスゲリン S 注射液 鶴原製薬	12.5% 2mL	”
パルトックス S 注射液 鶴原製薬	20% 2mL	”
アスコルビン酸注射液 25% 鶴原製薬	500mg 2mL	”
ネオラミンスリービー (静注用) 日本化薬	10mL	”
生理食塩液 鶴原製薬	500mL	”
アドナ(AC-17)注射液 田辺	10mg 2mL	”
強力ネオミノファーゲン C ミノファーゲン	20mL	”
セファメジン注射用 藤沢	1mL	”
イスジリン-20 清水一武田	1mL	” 白色沈殿を生じた
アナフラニール注射液 チバガイギー・ノバルティス	1mL	” 液は懸濁した
10mg コントミン注 吉富	1mL	” 室温 3 時間は変化なし、 24 時間でわずかに白濁